

容器包装の見直し

環境にやさしい資材を使った容器包装への取り組み

石油資源を使うことの多い容器に代えて、植物資源などを使った環境にやさしい容器を導入しました。農林水産省が進める「バイオマス利活用フロンティア推進事業」にも取り上げられたバイオマスプラスチック製容器包装の推進により、省資源と廃棄物の削減及び二酸化炭素の発生抑制により、地球温暖化防止に貢献しています。

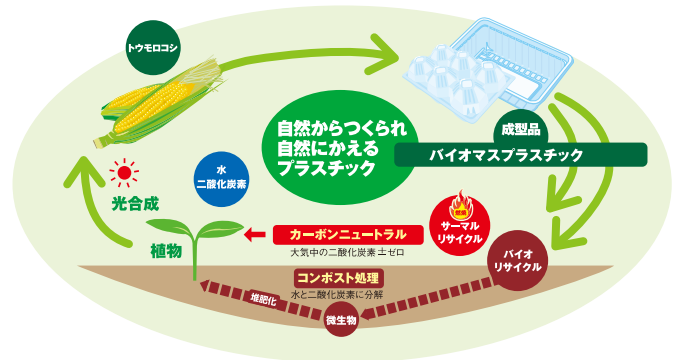
バイオマスプラスチックの導入の試み

家庭から排出されるゴミの60%が、商品の容器包装とされています。特に石油を原料としたプラスチック製容器包装が、容器包装リサイクル法のリサイクル方法及び、委託料の負担などで自治体や事業者の大きな問題になっています。また、石油資源は限りある天然資源なので、いつまでも使いつづけることはできません。

そこで、廃棄後地球環境に負担をかけず、原料の植物を栽培することにより継続的に使用できるプラスチック、バイオマスプラスチック製容器包装を導入しました。ユニーは、こうした環境負荷の少ない材料でつくった容器包装を使用し、将来は古紙のように原料リサイクルによりコストを下げることを目標にチャレンジしています。

バイオマスプラスチックとは

従来の石油などで作られるプラスチックと異なり、植物を原料としたプラスチックのことです。地球に存在する石油に限界があることは衆知のとおりですが、繰り返し栽培することによりサステナビリティ(継続的な)に生み出されるバイオマスプラスチックは、生分解性プラスチックでもあり、水と二酸化炭素に自然に分解します。この水と二酸化炭素は、原料の植物が光合成により生成したでんぷんが、また自然に戻ることで地球の二酸化炭素を増加させることにはなりません。(カーボンニュートラル)ただし、今回ユニーが導入したバイオマスプラスチック(ポリ乳酸)はトウモロコシを原料にしたもので、従来使用していたPETに比べ原料費が高いことと、若干熱に弱いことがこれから克服しなければならない課題です。



「バイオマスプラスチック」の特長

- 1 石油に代表される化石燃料の節約になる**
トウモロコシのような植物生まれの原料を使うことで、限りある化石燃料が節約できます。
- 2 二酸化炭素を増やさない**
バイオマスプラスチックを燃やしても、もともと含んでいた二酸化炭素が自然に還るだけで、地球上の二酸化炭素の増加にはつながりません(カーボンニュートラル)。
- 3 微生物の力で水と二酸化炭素に分解**
生ゴミと一緒に捨てても土の中の微生物によって水と二酸化炭素に分解され、廃棄物になりません。

バイオマスプラスチックマークによるお客様へのアピール

環境にやさしい資材であるバイオマスプラスチックを使った容器包装をお客様に広く知っていただき、本格的な普及への弾みとするために、独自のマークを目印にしたラベルをバイオマスプラスチックで作られたパッケージに貼っています。

